

**急性脳梗塞に対するトウサンカ(dengzhanhua)製剤(2008 issue 4, New)**

**Citation:** Cao W, Liu W, Wu T, Zhong D, Liu G. Dengzhanhua preparations for acute cerebral infarction. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2008, Issue 4. Art. No.: CD005568. DOI: 10.1002/14651858.CD005568.pub2.

**CRG名:** Stroke

**[最新版\(英語版\)はこちら](#)**

**英語版最終改訂年月:** 9 March 2008

**Clib issue No.;** N/U: 2008 issue 4; New

**背景:** トウサンカ製剤は中国で広く使用されている。多数の比較試験で急性脳梗塞の治療にトウサンカ製剤の有効性が検討されている。

**目的:** 急性脳梗塞の患者のアウトカムを改善させる上でトウサンカ製剤が有効で安全であるかどうかを評価する。

**検索戦略:** Cochrane Stroke Group Trials Register(最終検索2007年10月)、Chinese Stroke Trials Register(最終検索2006年6月)、trials register of the Cochrane Complementary Medicine Field(最終検索2006年6月)、Cochrane Central Register of Controlled Trials(CENTRAL)(コクラン・ライブラリ2006年第2号)、MEDLINE(1966年～2006年6月)、EMBASE(1980年～2006年6月)、AMED(Allied and Complementary Medicine Database、1985年～2006年6月)、China Biological Medicine Database(CBM-disc、1979年～2006年6月)、およびChinese Knowledge Infrastructure(CNKI、1994年～2007年10月)を検索した。関連性のある論文の参考文献リストも検索した。

**選択基準:** 急性脳梗塞と確認された患者を対象とした、投与期間、投与量、投与経路にかかわらずトウサンカ製剤に関するランダム化および準ランダム化比較臨床試験。

**データ収集と分析:** 2名のレビューアが独自に選択基準を適用し、試験の質を評価し、データを抽出した。

**主な結果:** 9件の試験を選択した。試験はすべて中国で実施されており、723例の参加者が含まれていた。ランダム化および隠蔽化の方法の記述は不十分であった。選択した試験では、トウサンカ注射とルーチン治療の併用を、ルーチン治療単独と比較していた。患者は脳卒中発症から1週間後までに組み入れられていた。事前に定めた主要または副次的アウトカムに関するデータを報告した試験はなかった。トウサンカ注射とルーチン治療の併用と、ルーチン治療単独との事後比較において、トウサンカ注射はアウトカム「顕著な神経学的改善」について統計的に有意な利益を示した(相対リスク1.53、95%信頼区間(CI)1.36～1.72)。重篤な有害作用の報告はなかった。

**レビューアの結論:** 本システマティック・レビューにおいて選択した試験は全般的に方法論の質が低く、サンプルサイズが小さいため、確固たる結論を導き出すことはできなかった。

(監訳 内藤 徹)

翻訳公開日: 09年2月20日

**ご注意:** この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点があれば、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。